

編集後記

『真實心』第三十集をお届けします。本集には、平成二十年度に行われました新入生対象の学長講話、および宗教講座の計四集が収められています。

皆さんは、本学の基礎である宗教を学ばれ、宗教講座を聴かれたわけですが、教室や講堂以外でも、宗教の意義・意味を学ぶことができます。つまり、数年前から私たち人間の存在にとって、宗教がどれ程大事なものであるかを考えさせられる現在世界で起こった悲劇的なことを見聞きしてきています。毎日、私たちはテレビ、ラジオ、ニュース、新聞、本や雑誌でも、宗教といろいろな関係がある悲劇を見たり、聞いたり、読みます。例えば、人間・動物・自然を無差別に殺す悲劇、教育が欲しいと望んだ理由で女性を対象とした殺人の悲劇、異なった信仰の為に芸術品を破壊する悲劇、そして人間が自らの欲望から地球の環境を破壊する悲劇、これらの多くを私たちはメディアを通して知ってきました。今年の宗教講座では、このとても広い人間と宗教と

いうテーマと、それに関する悲劇に触れましたので、講座で学生がそれらの理解を身に付けることができたことでしよう。つまり、一人の人間と生き物の世界との関係（「摂取不捨の心」、宗教と教育との間の関係（「宗教教育の意義」、芸術と宗教との間の関係（「仏教と話芸」、自然環境と宗教との間の関係（「現在の環境問題と日本の宗教」というそれぞれのテーマから、皆さんは人間存在にとって、宗教の意義・意味だけではなくて、現在世界の状況をもっと深く理解することができたことでしよう。宗教に関するそれらの理解を持つ心が、どの様に人と人との関係、世界にとって必要であるかを、講座を通して皆様の心に届けられるようにと願っております。

最後になりましたが、ご講話をお願いしました先生方には、ご多忙の中、原稿にお目通し頂きましたことを厚く御礼申し上げます。

（編集委員会）